

ロータリー財団NEWS

R I 第 2750 地区の皆様へロータリー財団に関する情報をお届けします。

CONTENTS 「ロータリー財団鈴木委員長からのメッセージ」
「2011-12 年度ロータリー財団委員会正副委員長、
並びに小委員会委員会の紹介」「2011-12 年度補助
金委員会委員の紹介」「2011-12 年度寄付増進委員
会グループ担当委員の紹介」「TOPICS」

2011-12 年度 VOL. 1

発行日：2011 年 8 月 18 日

発行者：ロータリー財団委員会

副委員長 高橋 茂樹

ロータリー財団鈴木委員長からのメッセージ

ロータリー財団のプログラムに参加しませんか。

国際ロータリー第 2750 地区
ロータリー財団委員長 鈴木 義明



2011-12 年度ロータリー財団委員長を仰せつかり、会員の皆様は何をご案内させていただく事が出来るか、またロータリー財団委員会に出向して下さった委員の皆様にロータリーの素晴らしさ、楽しさを感じていただくためには、どのような方法で委員会を運営していくべきか大変に悩みました。

92 クラブの会長の皆様には、会長エレクトセミナー(PETS)や地区協議会、ロータリー財団セミナーを通して、『ロータリー財団のプログラムに是非参加して下さい』と大きな声で呼びかけさせて頂きました。『皆様の地域、あるいは海外で心の通う素敵な奉仕をしてみませんか。』『補助金委員会』のメンバーが会員皆様をサポートさせて頂きます。『私たちロータリアンは世界中の子供たちに約束を致しました、この世の中からポリオが無くなるまでポリオ撲滅運動は止めません。』『ポリオ・プラス委員会』のメンバーが皆様のご支援を待っております。『世界の貧困/戦争を無くし世界平和の一助として勉強したい素敵な学生を募集致しております会員の皆様のそばにおりませんか。』『ロータリー平和フェロシップ委員会』は日本から多くの志を持った人を募集いたしております是非ご紹介ください。『皆様が、毎年 100 ドルを寄付して頂くだけで貴方は、多くの世界の子供たちを貧困から救っております。』『寄付増進委員会』では、ロータリー財団の標語である「世界で良いことをしよう」を皆様にご理解いただき、できるだけ多くの皆様に寄付をしていただけるようにお手伝いをさせていただきます。本年度は、募集を致しませんが「奨学・GSE・学友委員会」は帰国後の奨学生 OB そして 2013-14 年度から始まる新奨学生制度に向けて深く研鑽を致しております。ロータリー財団では、クラブの会長の皆様、そしてロータリアンの皆様にこのように多くのプログラムを設けております。是非、今年こそは楽しく一つでも多くのプログラムに参加していただければと思います。

また、本年度は多くの未経験の若い委員の方をロータリー財団小委員会にお迎えいたしました。この若い方たちを中心として有志による「ロータリー研究会」を発足致しました。クラブの会長さんから寄せられる言葉に、出向させるからには、ロータリー財団の勉強を是非徹底的に教えてくださいとの声が多く聞かれました。「時間とお金」を掛けて出向して頂く以上は、私ども委員会で素晴らしいロータリアンになれる一助となればと思います。クラブに戻ったときには、指導者として会員皆様から頼れる

ロータリアンとしてお褒めを頂ける事を期待してプログラムを作成いたしております。また、ロータリー財団以外の方も参加募集を致しておりますので、是非お声をお掛けください。

本年度、皆様にご協力を頂きながらロータリー財団委員会一同皆様のお力に慣れるよう努力いたして参りますので、何卒、宜しく願い申し上げます。

2011-12年度のロータリー財団委員会副委員長の紹介



副委員長
高橋 茂樹



副委員長
安保 満



副委員長
鈴木 剛



副委員長
清原 元輔

2011-12年度ロータリー財団委員会小委員会の紹介

■補助金委員会



委員長 安保 満

補助金委員会は各クラブが申請する補助金（DSG、MG）の良きアドバイザーです。補助金の対象となるプロジェクトか否かの判断や補助金対象のプロジェクトとするための工夫、補助金申請書の記入方法や報告書の作成方法等、補助金に関する事ならお気軽にご相談下さい。各グループを担当する補助金委員が懇切丁寧に皆様方に対応します。

また、東日本震災復興基金を利用した被災地支援プロジェクトの申請に関しても補助金委員会で相談を承ります。

地区補助金（DSG）とマッチンググラント（MG）の説明及び申請用紙は2750地区のホームページ「各委員会からの資料」の中に掲載されております。補助金の対象となるプロジェクトの条件や拠出される補助金額の計算方法等も記載されておりますので、申請書を作成する際は参考にして下さい。

■寄付増進委員会



委員長 根岸 浩秀

ロータリー財団への寄付

ロータリー財団プログラムの財源は、世界中のロータリアンからの任意の寄付によって支えられてきました。ロータリアンは、教育、異文化交流、人道的プロジェクトにおける類まれな結果を目にしたとき、より良い世界をつくるためには、ロータリー財団への財政的な支援が不可欠である理由を理解するでしょう。財団に寄せられた寄付は、年次プログラム基金、恒久基金、あるいはポリオ・プラス基金へ回すことができます。

□年次プログラム基金

年次プログラム基金は、ロータリー財団のプログラムの主な資金源です。年次プログラム基金の資金は、3年後の地区補助金、マッチング・グラントなどの未来の夢計画に基づく財団プログラムに使用されます。ロータリアンは、こうした活動を支援するため、毎年ロータリー財団へ寄付を行うことを奨励されるわけです。

□恒久基金

恒久基金は、収益を財団プログラムの支援に充てることのできるロータリーの基金です。原則として、この元金は永久に使用されることがなく、その収益の一部が財団プログラムのために利用されます。恒久基金へは、大口寄付、証券、遺贈、終身年金契約などで寄付することができます。

□ポリオ・プラス基金

ポリオ撲滅の支援のための寄付です。

□シェアおよび地区財団活動資金

シェア・システムを通じて、ロータリー財団への寄付は、国際親善奨学金、マッチング・グラント、研究グループ交換、その他財団プログラムの奨学金や活動に姿を変えます。シェアを通じて、財団プログラムに関する決定手続きに世界中のロータリアンが関与することになります。

地区内の全ロータリー・クラブから寄せられた年次プログラム基金への寄付は、3年後DDFとWFの2つの基金に分けられます。

寄付増進のお願い

□税制上の優遇措置について

個人と法人よりの年次寄付、ポリオ・プラス、使途指定寄付等は4月1日より、恒久基金への寄付は7月1日より税制上の優遇措置の対象となりました。

寄付金額収書により確定申告をして頂くことにより**個人寄付の場合は1年間の特定寄付の合計から、2,000円を引いた金額が、総所得から控除出来ます。**法人の場合は一般寄付金の損金算入限度額と同額以上が別枠として、**損金算入がみとめられます。**

片倉章雄ガバナーは、2011-2012年度第2750地区の地区重点目標にロータリー財団への支援を次の通り示されました。

年次寄付	1人	100ドル以上
ポリオ・プラス指定寄付	1クラブ	1,000ドル以上
ベネファクター (恒久基金への寄付が1,000ドルに達する者)		
	会員100名以上のクラブ	2名以上
	会員99名以下のクラブ	1名以上
大口寄付者 (ロータリー財団への寄付累計が10,000ドルに達する者)		
	地区で5名以上	

寄付増進に関しまして、グループ別の担当者がお手伝いさせていただきますので宜しくお願い申し上げます。

※担当者は、顔写真とともに、本NEWS7ページに掲載しています。

■ 奨学・GSE・学友委員会



委員長 鈴木 剛

私どもの委員会は他の奨学制度（青少年交換、米山記念奨学）と区別するために小委員会ですが「ロータリー財団」が頭に付いております。役割はロータリー財団委員会の内ロータリー平和フェロー委員会以外の部分のロータリー財団の奨学制度を担当しており派遣および受入の業務があります。派遣については、今年度は2013-2014年度派遣生の選考年度ですがご承知のようにロータリー財団の「未来の夢計画（フューチャー・ビジョン）」のスタートが2013年7月です。

2013年6月末で国際親善奨学金プログラムは終了となり、新しいプログラムによる奨学生の派遣となりますので今年度の奨学生の募集は行わず、「未来の夢計画」の具体的な実施要領が発表された段階で当地区として望ましい形で奨学生を募集することとなります。 それまでの間は新プログラムの研究が主な役割となります。ロータリー財団の最古のプログラムが無くなることは大変に残念なことです。RIおよびTRFが発展してゆくためには変化が必要ですのでやむを得ないことと理解しております。

GSE（研究グループ交換）は滞在期間が長く、しかも滞在費を地区が負担しますので巨額の資金が必要となります。辰野年度にシカゴ地区との交換を実施いたしましたので今年度はお休みの年度となり、最近2回の経験者の派遣クラブ、学友会を含めたケアが担当となります。

最後の学友ですが、国際親善奨学生、ロータリー平和フェローおよびGSE等ロータリー財団の教育的プログラムを終了した人を学友とRIでは呼称しております。東京地区には「ロータリーフェローズ東京」という学友組織があります。500人を超える会員がおり、その構成は2750地区のクラブ派遣の学友が150人程度会員となっております。隣の地区2580地区もほぼ同数位が会員となっており、それ以外に日本各地および海外の出身者も会員となっております。著名な緒方貞子さんが創設時の幹事を務められました由緒ある学友組織です。ロータリーファミリーとしてロータリー・クラブ、地区への協力を含め奉仕活動、親睦活動を行っておりますのでRFTとの結びつきをさらに深めてまいります。

さらに重要なことは派遣したクラブと学友を結び付けることです。1965年以降320名を超える国際親善奨学生を当地区は派遣しております。さらにGSE経験者およびロータリー平和フェローを加えると340名近くとなります。

ロータリーにとっては貴重な財産です。現在リストアップを行っておりますので近々各クラブにお知らせできると思います。学友はロータリアンとなる資格（国際ロータリー定款第5条第2節a項（5））がありますので、各クラブにおいてクラブ会員の候補として、またはロータリーファミリーとして学友との結びつきを更に深めてくださるようお願いいたします。

■ ロータリー平和フェロシップ委員会



2011-12年度ロータリー平和フェロシップ委員会の活動計画
委員長 萩原 道雄

世界の平和と紛争解決のための人材を育成するロータリー平和フェロシップ・プログラムの意義を十分に理解し、ロータリークラブの最重要なプログラムの運営を担う委員会であり、かつその委員であることの自覚を委員同士で共有し、活動する所存です。

ロータリー平和フェローシップ委員会の活動は4つあります。

一番目はロータリー平和フェローシップ・プログラムの啓蒙活動です。ロータリアンがこのプログラムについてあまり良く知らないという現状があります。同時に日本からの派遣フェローの応募が少ないので、その応募を呼びかけるためにも次のような活動を行います。

- ① 地区内、各クラブへのPR活動
- ② インターネットの活用（JICA等、各関係機関への働き掛け）によるPR
- ③ ロータリーの友の活用によるPR

二番目はロータリー平和フェローに関する支援活動です。これには次のような活動を行います

- ① カウンセラーへのフォロー
- ② 国際基督教大学（ICU）ロータリー平和センターとの密接な連絡、協調と必要な時におけるバックアップ
- ③ フェローに対する日本文化理解の機会の提供
色々な楽しい行事（狂言鑑賞、ジャズとボジョレヌーボーの会、三鷹国際交流フェスティバルでのドラムサークルなどなど）の提供
- ④ 日本からの派遣フェローと連絡できるための名簿の作成

三番目は諸会議における準備及び進行の活動です。このためには次の様なことが必要です。

- ① ホストエリア・コーディネーター及びコーディネーター補佐並びにICUロータリー平和センターとの緊密な連絡
- ② スケジュールの早期設定（会場の早期設定等）
- ③ 委員の業務分担の明確化等

四番目は委員会活動を円滑にするための委員の相互理解促進活動すなわち親睦活動です。夏に委員会+懇親会を開催、11月のジャズとボジョレヌーボーの会はフェローと一緒に親睦を深めますし、12月には委員会+忘年会を開催します。委員が互いに良く知り合うことによりこの奉仕活動を実りあるものにしていきます。

■ ポリオ・プラス委員会



委員長 清原 元彦

ポリオ（脊髄性小児まひ）は、ポリオウイルスによる伝染病です。主に5歳未満の幼児がこの病に冒されます。ポリオは身体を麻痺させ、ウイルスが脳幹に入れば運動ニューロンを侵し、呼吸困難や死亡に至るケースさえあります。ポリオ感染後の後遺症による麻痺障害を治療で治すことはほとんど不可能です。最善の対策は、予防です。60セント（約¥50）のワクチンで一人の子供をこの疾病から一生守ることが出来るのです。ポリオ撲滅がされなければ、今後40年間で約1000万人以上の子供たちがこの小児麻痺を患うことになるかと推測されています。

国際ロータリーは、ポリオ撲滅に1985年から取り組んでおり、あと一步のところに来ています。これまで百万人以上のロータリアンが122カ国においてボランティア活動を展開して来ています。

国際ロータリー（RI）は、世界保健機構（WHO）、米国疫病対策センター（CDC）、国連児童基金（ユニセフ UNICEF）の3機関と協力しポリオ撲滅運動を推進しています。現

在99%まで撲滅し、残り1%を撲滅するために頑張っています。

ロータリアンの皆様、『ポリオ撲滅への寄付にご協力ください』

ポリオ撲滅2億ドル チャレンジもあと1歩です。

2011年6月30日現在で1億8200万ドルになりました。

ポリオ常在国（アフガニスタン、パキスタン、インド、ナイジェリア）4カ国には、いまだ野生ポリオウイルスが残存しています。

また、アフリカのコンゴ共和国やガボン、ギアナ、マリ、コートジボアール等で、ポリオウイルスが復活の兆しを見せ始めています。

なんとしても、ポリオ撲滅運動を完結し、ポリオの脅威から子供たちを守ろうではありませんか。¥50で一人の子供を守れます。各クラブ1000ドルのご寄付で1600人の子供が守れます。世界中の子供たちの安全・安心のために皆様の温かいご理解とご協力をお願いします。

2011-12年度 補助金委員会委員の紹介

今年度の補助金委員会は5名の新人を迎え、フレッシュなメンバーが揃いました。皆様のクラブが人道的なプロジェクトをされる時、補助金を申請される場合は必ずご相談下さい。グループの担当者をご紹介させていただきますので、補助金に関するやご質問がありましたら、遠慮なく直接ご連絡下さい。

<p>委員長 安保 満 (全体統括)</p>  <p><東京昭島ロータリークラブ> 補助金委員会3年目です。今年度は委員長を拝命しました。委員会をまとめ、皆様のお役に立てるように頑張っています。 MAIL: anbo@subthree.co.jp</p>	<p>副委員長 加藤 書久 (PBG担当)</p>  <p><東京西南ロータリークラブ> 補助金委員会3年目になりますが、昨年1年間のブランクもあり、初心に戻って精進します。主として、MGを担当します。よろしくお願い申し上げます。 MAIL: fu-katou@ejrcf.or.jp</p>
<p>委員 石井 弘 (京浜G担当)</p>  <p><東京品川中央ロータリークラブ> 今年度も引き続き京浜グループの地区補助金を担当します。今年で2年目になります。よろしくお願い致します。 MAIL: h@icij.co.jp</p>	<p>委員 曾我 道治 (千代田&銀座・日本橋G担当)</p>  <p><東京西ロータリークラブ> 1年生委員です。皆様と一緒に勉強していきたいと思っております。気軽にご相談下さい。 MAIL: mhs@sogapat.com</p>
<p>委員 西村 弘之 (山の手東&山の手西G担当)</p>  <p><東京世田谷ロータリークラブ> 補助金委員会一年目でロータリー経験も四年目と若輩者ですが、未熟さを行動力とスピードで補います。お気軽にお声掛けください。 MAIL: nishimura@mui-inc.jp</p>	<p>委員 鈴木 明彦 (山の手東&山の手西G担当)</p>  <p><東京世田谷南ロータリークラブ> 初めての補助金委員会ですが、沢山の事を学び皆さまのお役に立てるよう思いやりの気持ちを大切にお手伝いできればと思います。宜しく願い致します。 MAIL: suzuki358@ast-inc.co.jp</p>
<p>委員 杉山 勲 (多摩東&多摩中&多摩南G担当)</p>  <p><東京町田ロータリークラブ> 昨年は、担当が1件でした。2年分働きますのでよろしくお願い致します。 MAIL: l-dettori@nifty.com</p>	<p>委員 比留間章光 (多摩東&多摩中&多摩南G担当)</p>  <p><東京昭島中央ロータリークラブ> 今年度より補助金委員会に出向させていただきました。私自身も学びながら皆さまのお役に立てればと思っております。宜しく願い致します。 MAIL: a-hiruma@kohodenki.co.jp</p>

委員 百田 晶子（千代田&銀座・日本橋G担当）



＜東京武蔵国分寺ロータリークラブ＞
補助金委員会の1年生です。初めての経験なので、まだまだ勉強中の身です。少しでも皆様のお役に立てられるようがんばります！

MAIL : omom4989@yahoo.co.jp

委員 坂元 吉裕（PBG担当）



＜グアムサンライズロータリークラブ＞
PBGグループには4つの政治体系と8つのクラブがあります。各々が様々なニーズを特定し支援を求めています。有意義なプロジェクトを少しでも多く実現させてあげたいと思います。

MAIL : sakamoto@nanbo.com

2011-12年度 寄付増進委員会担当委員の紹介

寄付増進委員会ではグループ別の担当者を選任し、皆様のクラブの寄付増進のお手伝いさせていただきます。寄付増進に関するご質問やご相談は、担当委員まで遠慮なくご連絡ください。尚、連絡先につきましては、地区便覧をご覧ください。もしくは、所属クラブの事務局までお問い合わせください。

□千代田グループ担当



森村 潔
(東京南 RC)

□銀座日本橋グループ担当



根岸 浩秀(委員長)
(東京シティ日本橋 RC)

□京浜グループ担当



石川 礼央(副委員長)
(東京品川 RC)

□山の手東・西グループ担当



中村 真一
(東京恵比寿 RC)

□多摩南グループ担当



奥田 直智
(東京立川こぶし RC)

□多摩中グループ担当



田中 太
(東京立川 RC)

□多摩東グループ担当



野澤康次郎
(東京調布むらさき RC)

TOPICS

■東日本震災復興基金の使用状況

全世界のクラブからロータリー財団の東日本震災復興基金にお振込みいただきました金額は、本年6月末まではロータリー財団本部で、各地からの補助金申請に対応していましたが、申請から補助金が振り込まれるまでに時間を要すること、通常のマッチング・グラントのように海外のクラブと災害地のクラブを組み込まなければならないこと等の問題が指摘されていました。そこで、日本から選出されている小沢一彦管理委員が、この東日本震災復興基金に関しては、全面的に日本で管理・運営をしていくことを提案され、7月1日よりその管理・運営は新たに設置された「日本委員会」にゆだねられました。

すでに、その申請方法等は皆様のクラブのご案内が行っていると思いますが、8月6日に開催されました第1回目の日本委員会では、全体で45件、約5,000万円の補助金の申請があったとのこと。残金は、約1億円とのことで、今後も日本委員会は、月1回の割合で開催され、申請の承認を行っていくとのこと。

尚、12月末まで基金の受付をしていますが、申請件数が予想より多いようですので、この東日本震災復興基金を活用してみたいクラブ、すでに計画をされているクラブは、できるだけ早い時期に申請をされることをお勧めします。

■2013-14年度の国際ロータリー会長が指名されました。

2012-13年度RI会長は、日本から3人目となるRI第2770地区八潮ロータリークラブの田中作次氏ですが、ロータリー財団未来の夢計画がスタートする2013-14年度RI会長として米国オクラホマ州、ノーマン・ロータリー・クラブのロン D. バートン氏が、指名委員会により選出されました。対抗候補者がいない場合、同氏は10月1日に会長ノミネーとなります。

1979年にロータリアンとなったバートン氏は、現在、未来の夢委員会副委員長と米国ポリオ撲滅タスクフォースのメンバーを務めています。これまでにRI理事、ロータリー財団管理委員、管理委員会副委員長、国際協議会モデレーター、モデレーター補佐、グループ討論リーダー、地区ガバナーを歴任しました。

<編集後記>

このロータリー財団NEWSも最初に発刊してからすでに3年目に入りました。ただでさえ「難しい」「分かりにくい」と言われるロータリー財団を少しでもご理解いただけるように、頑張って発刊してきました。残念なことは、このNEWSが会員の皆様まで届いていないクラブが多いことです。クラブ会長の皆様、クラブ幹事の皆様、クラブロータリー財団委員長の皆様、そして事務局の皆様、どうぞ会員の皆様にこのNEWSが届きますように、ご尽力いただければと思います。今年も年4回の発刊を目指して頑張って行きますので、今後とも、何卒、よろしくお願い申し上げます。